



# 春のオススメ本紹介

## YA担当より

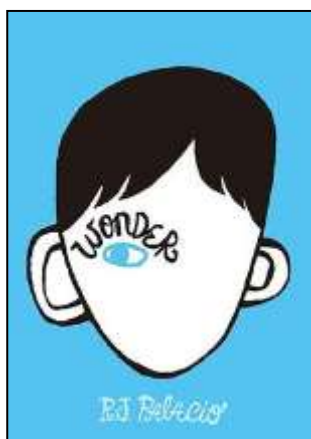
少しずつ暖かくなり、春が近づいてきていますね。

春は出会いの季節。YA書架を訪れて、あなたにぴったりの1冊を探してみませんか。



### ① 『ワンダー』

R.J.パラシオ／作  
中井 はるの／訳  
ほるぷ出版  
YA書架 933パ



オーガストは普通の男の子。ただし、顔以外は。顔に先天的な障害があるオーガストは、10歳で初めて学校へ行くことになった。しかし、オーガストの顔を見て驚き、病気がうつると避ける生徒たち。一方で、オーガストの周りに少しずつ友達が増えていく。そんなとき、ある事件が起こる…。素敵で大切な言葉がたくさん詰まっていて、“勇気、友情、親切”とは何か考えさせられる一冊です。

### ② 『植物は〈知性〉をもっている』

ステファノ・マンクーツ、アレ  
ッサンドラ・ヴィオラ／著 久  
保 耕司／訳  
NHK出版  
YA書架 471.3マ



あなたは植物に知性はあると思いますか？脳がないなら知性はないのでしょうか？

本書では植物の驚くべき感覚について説明してあります。植物には目も耳も口もありませんが、視覚も聴覚も味覚もあるのです。考えてみてください。彼らは「動けない」のではなく、「動かない」のだとしたら…。

今までとは植物を見る目がきっと変わりますよ。

### ③ 『あ、はるだね』

ジュリー・フォラーノ／文  
エリン・E.ステッド／絵  
金原 瑞人／訳  
講談社 YA書架 Eス

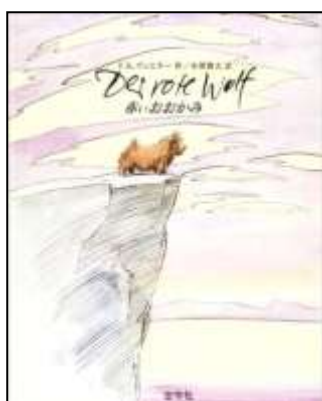


「ちやいろ。ここもあそこもみんなちやいろだ。」辺り一面茶色の大地に男の子はたくさんの種をまきます。雨がふって、一週間過ぎて…。なかなかすぐには芽はでないけれど、「どしどしあるかないてください。」なんて立札を立ててみたりして、待ち遠しいな…。

春を待つわくわくとした気持ちが淡々とした文章からにじみ出る、冬から春への移り変わりが美しい絵本です。

### ④ 『赤いおおかみ』

F. K. ヴィヒター／作  
小澤 俊夫／訳  
古今社 YA書架 Eベ



この春から新しい生活、または、いつもの日常が始まる皆さんへ。その生活は自分の望んだもの、望まなかったもの、それぞれ多くの感情を含んだ毎日となることと思います。

この絵本の主人公の「ぼく」は、犬として生まれながら、それとは違った生き方を歩みます。彼が生最後の最後に抱いた感情は、これから生きる私たちに、大きな魅力を与えてくれることでしょう。

あとがきの作者の言葉も、絵本への深い思いが感じられます。

